

以前、拙文「水の流れとオノマトペ」(IHI 技報 Vol. 53 No. 1 pp. 22 - 23)で豊かな日本語オノマトペの一端を紹介しました。オノマトペには擬音語、擬声語、擬態語、擬情語があります。擬音語は「ピコピコ」や「シューワッ」のように物が発する音を、擬声語は「オギャーオギャー」や「ツクツクポーシ」のように人間や動物の声を、擬態語は「まったり」や「スッキリ」のように様子を、擬情語は「ワクワク」や「ハラハラ」のような気持ちをそれぞれ表します。最近マンガに登場するオノマトペを通じて、その魅力が欧米にも認められているようです。今回はお天気にまつわるオノマトペを幾つか取り上げて読者と一緒に味わってみたいと思います。

雨のオノマトペ

日本の降水量は OECD 加盟 34 か国のなかでアイスランド、ニュージーランドに次ぐ多さであり(1668 mm/年(2014年))、雨に対する日本人の思い入れの強さ、ひいては雨に関するオノマトペの豊かさにつながっているようです。たとえば雨の降り方の弱いほうから順に、「ぽつぽつ」、「ばらばら」、「しとしと」、「ざーざー」、「どしゃどしゃ」といった具合です。これらの多くは音を写した

擬音語に属します。

降り始めの様子を表す「ぽつぽつ」は雨のしずくが物に当たった音を想像した擬音語と言えそうです。「り」や「っ」を加えると「ぽつりぽつり」や「ぽつっぽつっ」のように雨粒がまばらな様子が強く感じられます。もう少し降り方が強まると雨粒が木の葉や窓ガラスに当たる音が「ばらばら」と聞こえてきます。いずれにしても、降り始めの音は p 音が主役です。

「しとしと」は弱い雨ですが連続的な降り方を感じます。仲間のオノマトペ「しっとり」からも想像できるように、雨粒が何かに当たる音よりは全体的に湿ってぬれた様子が表されています。新明解国語辞典(三省堂)の用例に「大人の情感をしっとりとして歌いあげる」とあるように好ましい印象があります。しかし、「じっとり」や「じとじと」になると途端に不快感を伴う表現になります。

さらに雨脚が強まると「ざーざー」や「どしゃどしゃ」の出番です。「ざーざー」はたくさんの雨粒が地面や屋根に当たる音です。「どしゃどしゃ」は地面にできた水たまりに雨粒が衝突して出す音を感じます。「どしゃ」は混雑していて騒々しい様子を表す「どさくさ」と同源で「どっさり」も仲間です。「ど」が衝突音、「しゃ」が

雨と雪とオノマトペ

技術開発本部
内田 博幸



「しとしと」



「ざーざー」

水しぶきが飛び散る音を表していると考えられます。ちなみに「土砂（降り）」は借字です。

北原白秋作詞、中山晋平作曲の童謡「あめふり」の中におなじみの歌詞「ぴっちぴっち、ちゃっぷちゃっぷ」というオノマトペが登場します。ここで以前紹介した「ちゃぼん」が思い出されます。池に飛び込んだカエルが立てる「ちゃぼん」という音は、カエルが水面に衝突した音「ちゃ」と、カエルが沈んだあとに立った水柱が再び水面をたたく音「ぼん」だという話です。童謡の「ちゃっぷ」は「ちゃぼん」にとてもよく似ています。筆者の想像では「ちゃっぷ」という音は雨の中をお母さんと楽しく歩く子供が水たまりに足を踏み入れて跳ね返った水の音ではないかと思います。さらに、小池一雄作詞、吉田正作曲の映画主題歌「子連れ狼」に「しとしとぴっちゃん」というオノマトペが登場しますが、「ぴっちゃん」と「ちゃっぼん」は使われている音とリズムがとてよく似ています。

雪のオノマトペ

ある調査によれば、日本、アメリカ、カナダの人口10万人以上の都市のなかで年間降雪量の多い都市トップ3を青森・札幌・富山が占めています。日本は雨と同様に雪も多く、したがって雪にまつわる言葉ひいてはオノマトペも少なくありません。

雨と同様に雪の強さによって幾つかのオノマトペがありますが雨ほど段階が多くないようです。まず降り始めは「ちらちら」や「ちらほら」。雨のように直線的ではなく

揺れ動きながら舞い落ちる様子が「ちらり」という音によって表されています。仲間には「はらはら」があり、木の葉や涙にも使われます。「はら」には「ちら」より一層はかなさが感じられます。雪があられに変わると「はらはら」が「ぱらぱら」になって物に当たる音を表します。

降り方が強くなると「しんしん」が使われます。雪は静かに降りますので「音」は聞こえません。静寂を表すオノマトペに「しーん」がありますが、「しーん」という音は聞こえるのでしょうか？ 実は、無音の環境にあっても人間は自らの呼吸や心臓の鼓動を聴覚で感じるので「静寂の音」があると言われていました。日本語のオノマトペではそれが「しーん」と表されているようです。ちなみに、「お静かに！」と言うとき日本語では「しーっ！」と言いますが、英語では“Shush!”と言います。どちらもsh音で表されているところが面白いです。雪のオノマトペから少し脱線しました。

また、雪のオノマトペは降り方だけではなく積もった雪に関するものもあることを忘れてはなりません。踏みしめる音「さくさく」や「ざくざく」をはじめ、スキーヤーなら誰でも経験したことがあるアイスバーンを表す「がりがり」、「ぱりぱり」や春スキーの「じゃりじゃり」、「しゃりしゃり」などがありヒヤッとした経験を思い出させます。「ふかふか」な新雪もはまると怖いですが。

(写真：内田博幸)



「しんしん」